

## 6) 診療科別主要手術別患者数等 (診療科別患者数上位3位まで)



### 呼吸器内科 (全16症例)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K386	気管切開術	-	-	-	-	-
K6153	血管塞栓術 (頭部、胸腔、腹腔内血管等) (その他)	-	-	-	-	-
K496-4	胸腔鏡下膿胸腔搔爬術	-	-	-	-	-

呼吸器内科では、手術症例はそう多くはありませんが、嚥下機能が低下し誤嚥性肺炎など併発しやすく、自力での喀痰排出が困難となった場合に実施します。気管切開を行い切開口から喀痰を吸引してあげることで、呼吸困難などの症状を軽減させる効果があります。

今回、呼吸器内科の手術に関しましては、患者様が特定され得るため情報は記載いたしません。

### 消化器内科 (全477症例)

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	105	1.39	12.55	5.71%	76.75
K654	内視鏡的消化管止血術	55	0.33	8.71	5.45%	67.64
K7211	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	50	1.20	1.60	0.00%	63.46

消化器内科では、胆道疾患に対して行われる手術である内視鏡胆道ステント留置が最も多くなっており、狭くなっている胆道にチューブを挿入して拡張し、胆汁の流れをよくする手術です。

次いで、吐血・血便など消化管から出血している患者様に対して行う内視鏡的消化管止血術が多くなっており、

また、大腸ポリープや大腸腺腫に対する内視鏡ポリープ・粘膜切除術は短期入院となっており、日帰り手術も行なっていることから今回の条件より少々患者数が減少していると思われます。

## 循環器内科（全651症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 其他のもの	249	1.57	3.07	0.40%	67.34
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	87	1.53	3.99	0.00%	63.61
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	61	1.15	3.89	1.64%	70.74

循環器内科では、地域周辺の医療機関からの紹介、離島施設からの紹介も多く、虚血性疾患（心筋梗塞や狭心症など）に対する経皮的冠動脈ステント留置術、経皮的カテーテル心筋焼灼術といった心臓カテーテル治療の症例が多くなっておりま。従来より循環器内科医師が24時間365日院内に待機している体制に加えて、モバイル心電図電送システムを活用した診断システムを採用して、心筋梗塞の患者様への早期診断・治療が可能となり、救命率・社会復帰率の向上につながっております。

また、チーム医療に関しては、他科からの依頼も多く、最も多いのが腎臓内科の経皮的シャント拡張術（17件）となっております。

## 腎臓内科（全95症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K610-3	内シャント又は外シャント設置術	22	14.64	17.18	4.55%	69.41
K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	17	5.65	11.65	0.00%	66.41
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-

腎臓内科ではシャント設置術が多くなっておりま。シャント設置術とは、主に透析患者様に行われる手術です。体内に生じる老廃物を週に2～3回、1回4時間程度の透析で除去しなければならなく、短時間にたくさんの血液を採取できるようにするための手術です。

また、シャント拡張術はバルーンのついたカテーテルをシャント内の狭窄部（狭くなっている部分）でふくらませることによって拡張する手術です。

外科、循環器内科と連携を取りながら、チーム医療に努めています。

今回、内視鏡的消化管止血術に関しましては、患者様が特定され得るため情報は記載いたしません。

## 糖尿病内科（全10症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）	-	-	-	-	-
K6262	リンパ節摘出術 長径3センチメートル以上	-	-	-	-	-
K821-3	尿道ステント前立腺部尿道拡張術	-	-	-	-	-

糖尿病センターでは基本的に手術は行われませんが、当院は総合病院であるため糖尿病内科で入院中になんらかの病状がある場合に、別の診療科で対応していただいた症例になっております。

糖尿病・内分泌内科が関わった手術に関しましては、患者様が特定され得るため情報は記載いたしません。

## 外科（全822症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	84	1.44	4.60	1.19%	58.61
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	73	1.04	2.89	0.00%	63.04
K7193	結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術	57	4.40	14.53	8.77%	69.60

外科では、腹腔鏡下胆嚢摘出術が最も多く、次いで腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術となっております。

結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術はガイドラインに沿った治療法を心がけております。

手術適応を厳格にしなが、適応に応じ腹腔鏡下手術を積極的に実施しており、術後のQOLを高めるよう工夫しております。

## 心臓血管外科（全135症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K552-22	冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないもの） 2 吻合以上のもの	32	6.00	17.34	9.38%	66.25
K5551	弁置換術 1 弁のもの	29	3.10	17.17	0.00%	74.62
K5552	弁置換術 2 弁のもの	14	4.21	21.93	0.00%	64.36

心臓血管外科で主に行われている手術は、冠状脈・大動脈バイパス移植術です。この手術は患者様にとって侵襲の少ない「心拍動下冠動脈バイパス術」を100%完遂し、移植血管の開率は96.4%良好です。

## 小児科（全6症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K9132	新生児仮死蘇生術 仮死第2度のもの	-	-	-	-	-
K300	鼓膜切開術	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

小児科の入院症例で手術として扱われるものは、仮死状態で出生した新生児に対する蘇生術や、小児科で入院中に併発した耳疾患に対する鼓膜切開術となっております。全体的に数少ない症例数となっております。今回、小児科の手術に関しましては、患者様が特定され得るため情報は記載いたしません

## 整形外科（全1472症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0821	人工関節置換術（膝）	449	1.55	13.55	17.82%	74.55
K0821	人工関節置換術（股）	156	1.19	16.76	9.62%	69.13
K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 （多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 椎弓形成	156	4.43	20.14	15.38%	66.08

整形外科では、主に人工関節置換術（膝・股関節）を行なっております。人工関節置換術は高度に壊れたり変形した関節を金属などでできた人工の関節に置き換えて痛みを軽減する手術です。これまで多くの患者様が日常生活を楽しく送れるようになっていました。また、膝の人工関節置換術は日本全国でもトップクラスの手術件数です。

他にも、脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術は椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などに対して行われる手術です。手術では全症例に顕微鏡を導入しています。

## 産婦人科（全461症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K8882	子宮付属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの	69	0.96	3.26	0.00%	43.25
K861	子宮内膜搔爬術	62	0.05	0.29	0.00%	45.40
K872-3	子宮内膜ポリープ切除術	56	0.04	0.07	0.00%	44.21

産婦人科で主に多い手術症例は、卵巣腫瘍などがみつかった場合に、子宮付属器（卵巣・卵管）対して行う腹腔鏡下手術です。当院では腹腔鏡下筋腫核出術、腹腔鏡下子宮全摘術、子宮鏡下筋腫核出術等の手術を行なっており、傷跡も少なくすむことで患者様の身体への負担軽減にもつながります。次いで多いのが、子宮内膜搔爬術です。子宮内膜に異常が見つかった場合に診断・治療を行うために実施します。上記のほか、当院は子宮頸癌に対して妊孕性温存の広汎子宮頸部摘出術も行なっています。また、当院では帝王切開も数多く行なっておりますが、今回の抽出条件では計上されておられません。

## 眼科（全152症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K28210	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	141	0.06	1.03	0.00%	72.46
K2422	斜視手術 後転法	-	-	-	-	-
K2681	緑内障手術 虹彩切除術	-	-	-	-	-

眼科では、白内障手術が最も多く、日帰り手術が大半を占めています。南部地区の地域医療支援病院として、各医療機関ともに連携を取り合い、眼科診療を提供しています。手術治療に関しましても、患者様のニーズにお答えできるよう努めています。

今回、斜視手術・緑内障手術に関しましては、患者様が特定され得るため情報は記載いたしません

## 耳鼻咽喉科（全136症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術ⅢⅢⅢ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	16	1.06	4.75	0.00%	50.69
K3772	口蓋扁桃手術 摘出	16	1.00	7.06	0.00%	23.56
K339	粘膜下鼻甲骨切除術	14	1.00	3.14	0.00%	28.21

耳鼻科では、内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型の手術と口蓋扁桃摘出術が多く行われております。口蓋扁桃摘出術は扁桃炎を繰り返す患者様に実施される手術です。

当院は、副鼻腔炎に行われる内視鏡下鼻・副鼻腔手術（ESS）を導入してから10年以上が経過し、その症例数も年々増加傾向にあります。これまでの副鼻腔手術のイメージとは違い、低侵襲な内視鏡手術を更に工夫することによって、より安全で負担の少ない鼻の手術を目指していきたいと思っております。

## 皮膚科（全35症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	17	1.12	11.41	0.00%	77.29
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部） 長径4センチメートル以上	-	-	-	-	-
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上）	-	-	-	-	-

皮膚科では、主に皮膚の腫瘍の摘出手術を行っております。当科ではダーモスコープ診断により「痛みのない検査」で皮膚腫瘍の診断を行うことが可能です。いつも患者様のQOLを大切に考えて最良の医療サービスの提供に努めています。

今回、皮膚科の皮膚、皮下腫瘍摘出術に関しましては、患者様が特定され得るため情報は記載いたしません

## 泌尿器科（全373症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7811	経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの	87	0.83	3.71	0.00%	61.17
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	76	0.87	5.45	6.58%	65.54
K8036□	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	49	2.10	7.18	0.00%	74.08

泌尿器科で多い手術は、経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもので、尿道から内視鏡を挿入して、直接レーザーにて結石を破砕する手術となっております。次いで、経尿道的尿管ステント留置術です。水腎症や尿路結石症の場合に腎臓と膀胱の間にある尿管に留置し、尿路における尿の通過障害などのリスクを減らします。3番目に多い経尿道的膀胱悪性腫瘍手術は膀胱がんに対して行う手術です。尿道から内視鏡を挿入して腫瘍を切除治療するものです。

## 脳神経外科（全195症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K1781	脳血管内手術 1箇所	38	0.95	10.11	13.16%	61.63
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	30	0.40	10.13	6.67%	79.03
K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	28	3.68	6.75	10.71%	71.46

脳神経外科で最も多い手術は脳血管内手術です。この治療の特徴は、更に身体への負担を軽く治療ができます。また、当院は最高クラスの脳血内治療設備が整っており、さらに脳血管内治療を迅速かつ的確に行えるよう訓練された沢山のスタッフがおり全国でもトップクラスです。平成24年度以降においては、救急診療拡大、脳血管内手術、内視鏡手術等新しい手術の導入に伴って手術件数は飛躍的に増加しています。中でも脳動脈瘤コイル塞栓術につきましては、県内外トップレベルです。2015年度は109件の治療を行いました。

## 形成外科（全225症例）

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹	26	1.12	3.35	0.00%	48.96
K0503	腐骨摘出術 鎖骨、膝蓋骨、手、足その他	15	8.20	50.40	26.67%	66.67
K333	鼻骨骨折整復固定術	14	0.86	0.29	0.00%	26.43

形成外科では主に皮膚体表面の病変や顔面骨の手術を実施しております。形成外科ならではの再建技術・知識を用いてQOLに配慮した治療を行います。十分なインフォームド・コンセントを行い、治療法の選択は患者様の意向を尊重し、治療のゴールが共有されるよう努めています。